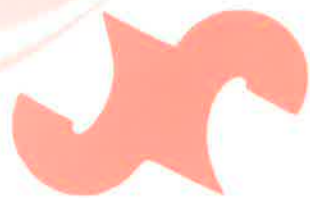
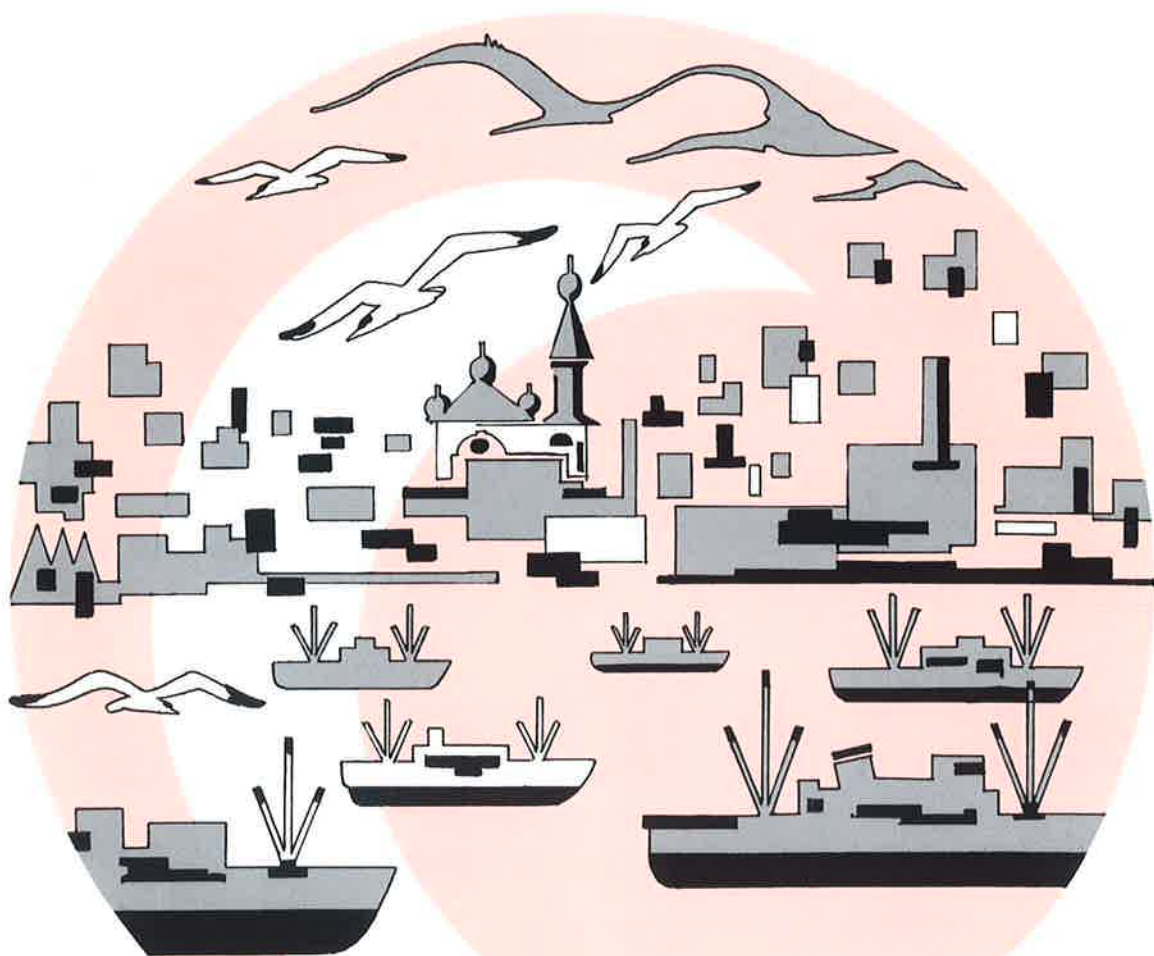


ともしえ No. 27



■函館商工会議所報■

1983 新年号

謹んで新年の
お慶びを申し上げます

謹賀新年



CITY TURBO



CITY



ACCORD



CIVIC



Tact



acty

市内3処点!! 完璧なサービス網を誇る



ホンダサイト函館(株)

■ 本社ショールーム/函館市昭和4丁目36番22号 ☎42-8888代

■ 吉川店/函館市吉川町1番地5号 ☎41-3469代 ■ 産業通店/函館市美原2丁目7番19号 ☎46-5577代

巻頭言

地元でクシヨッパイ河の愛称で呼ばれ、親しまれてきた津軽海峡。この海面下、北海道と本州とを結ぶ青函トンネルの先進導坑において水平ボーリングにより小さな穴とはいえ陸続きとなったことが報ぜられたのは昨年十一月十六日のことでした。貫通式を間近に控え、鉄建公団を始め関係者の喜びも、またひとしおのことと思います。

それにしても、予想されたこととはいえ、トンネル総延長五三・八五筈、海底部二三・三筈間の設計、測量の水平距離誤差が、わずかに〇・八八筈という正確さには驚きもし、感嘆しました。日本の土木技術陣の偉業として世界から高く評価されても不思議ではないと思います。

おもえば、昭和三十九年五月、渡島管内福島町吉岡から青函トンネル調査斜坑工事がスタートした時、函館の行政指導者、経済人、一般市民の反応はさまざまでした。マイナス面を主体に考える人、プラス面を強調する人、現在でも賛否両論があることは事実ですが、ともあれ、時代の波は確実に、そして迅速にやってきました。近い将来、青函トンネルが完成したとき、本道の玄関である函館市はどうなるであろうか、道南経済圏への影響はどうだろうか。それぞれの立場で期待と不安が入り混っている事実も見逃すわけにはいきません。

しかし、これらに対する不安がある以上、その要素をきびしく追及することが大切であり、それによりマイナス面が指摘されたならば、これをプラスに転化する努力が必要でありましょうし、プラス面は、その可能性をさらに発展させなければなりません。それが、我々経済界に与えられた課題であり、道南に住むものに課せられた使命ではないでしょうか。

目次

ともえ 1983 新年号 No.27

巻頭言	1
新年を迎えて	函館商工会議所 会頭 川田 寛 2
年頭所感	日本商工会議所 会頭 永野重雄 3
会議所だより	4~7
○第3回臨時議員総会	
○第1回常議員会	
○道商連第91回臨時会員総会	
○陳情・要望活動	
○函館駅開業80周年記念一日駅長	
○第24回函館商工会議所優良商工従業員表彰式	
誌上年賀	8~15
特別寄稿文	中国を旅して(8) 平沼智子 16~17
おめでとう20歳	18~19
姉妹都市ハリファックス市と函館市の水産業	20~23
ご存じですか	24~25
調査レポート	26~31
○金融経済概況(10・11月) 日本銀行函館支店	
○統計資料 大型店売上高(10・11月)	
○経済の窓 昭和57年度モデル貸金調査	
アドバイスコーナー	32~33
事務局日誌(11・12月)	34~35
相談所だより	34~35
ティータイム	36~37
告知板	38

新年を迎えて

函館商工会議所

会頭 川田 寛



昭和五十八年の新春を迎え謹んでお慶びを申し上げます。

昨年度をふりかえってみますと、日本経済は民間設備投資の停滞、住宅関連事業や個人消費の不振に加え、対欧米への貿易摩擦も生じ、一部エレクトロニクス関連業界の好況を除いては総じて不況感が強く、実質経済成長率は三分台の低率に落ち込み、極めて厳しい環境下に終始いたしました。

特に貿易立国を産業の根幹とする日本経済にとつて、貿易摩擦の拡大は誠に憂慮すべき課題であり、新春早々その対応が急がれております。

しかしながら欧米の経済に比べ、物価上昇率や失業率等の経済指数は比較的安定しており、かつまた金融緩和の情勢下にあつて、中小企業等の財務維持が略順調に行われたことは幸いであります。

ひるがえつて当地域におきましても、各産業共不振感が強く、公共投資の前倒しによりその下支えが図られましたものの、経済実感としてはかつてない厳しい不況裡に推移いたしましたのであります。

明けて今年の経済展望ということでありますが、政府による貿易摩擦緩和への対応策と共に、何と言つても国内需要の拡大を指向する政策を切望することは、異論のないところであります。

特に当地域にとりましては、地場産業の活性化のための対応策がはかられなければなりません。最近特に言われる「地方の時代」という言葉の本身は、地域の中小企業が自己努力によって新しい経済環境（例えば昨年辺りから特に唱えら

れてきた技術革新による刺激）に如何に早く柔軟に適應して、その高度化、付加価値の増加を考えるかということの意味するものであらうと思ひます。

そしてこれによって初めて、最近とみにUターン志向が増えている地元若者に希望と雇用の場を創造して行くことが出来ることになるわけでありませう。

更にはまた、このために時代のニーズを的確に捕えた経営感に立って、資金力、技術力、販売力を一歩づつでも積上げて行く努力を払ふことにより、地域に深く根ざした地場産業を形成する中小企業の活性化が期待出来るのであります。

一方目を転じて、昭和五十八年度以降の長期的課題を考えると、その最大のものは、青函トンネルの先進導坑が貫通するというところであります。

本州と北海道が地続きになったという実感に立脚し、函館経済圏としてこれに如何に対応を図るかということであり、連絡船問題を含めたこの大きな環境変化を迎えて、デメリットを如何に抑制しメリットある展開を求めるか、地域の英知と努力を集めなければなりません。

更には、駅前地域再開の促進やテクノポリス開発構想の設定、そしてこれに付随する国立大学設置問題等、その他懸案を併せ多くの中長期的課題への対応に、行政と一体になって根強く取組む必要があります。

また経済対策として速効性のある観光事業の拡大も、西部地域の保存整備が進んだ歴史的文化的遺産を含めた積極的総合的展開が図られるべきであります。

以上の諸問題を展望し、それを推進するために最も必要な条件は何かということとありますが、先ず第一には、地域産業の経営者が信念と哲学をもって困難な環境打開へ挑戦する自動的意志を強く発揮することであり、第二には、当商工会議所が長い歴史と伝統の中で育んできた潜在的な英知と先見性を結集することでありませう。

昭和五十八年度の日本経済へのマクロ的展望は、前年に引続き厳しい予測が打ち出されておりますが、当地域としては、その打開克服のため協調融和の信条の下、自助努力を発揮して各産業活性化への途へ歩み出す希望ある一年といたしたく念願するものであります。

年頭所感

日本商工会議所

会頭 永野 重雄



明けましてお目出度うございます。

今年も千支で申しますと、亥年、内外に山積する課題に勇猛心を奮い起こして当たるべき年だと思えます。しかし、目先だけにとらわれた、いわゆる猪突猛進ではなく、長期かつ高次元の視野をともなった行動が肝要かと存じます。

さて、昨年十一月、中曽根新内閣が誕生いたしました。私はその直後総理にお会いし、次の四点を要望いたしました。それはいずれも日本の将来を左右する大事な課題と考えたからであります。

その一つは、国際社会への適切な対応であります。世界的な不況下、多くの国は失業の増大に苦しみ、これが貿易摩擦を激化させて保護主義の傾向を一段と強めております。放置するならば、世界経済の縮小ひいては崩壊を招きかねないものと憂慮いたします。貿易立国であるわが国としては、一段と市場開放に努めるとともに、あらゆる交渉の場を通じて自由貿易体制の維持強化に一層の努力を傾注すべきだと存じます。

ところで、こうした問題については、大事に至らぬよう、日頃から日本への理解を深めて置かなければなりません。政府は勿論、民間も経済外交を一層推進することが必要です。この見地から私は微力ながら、今年も米国、ソ連、アセアン諸国など世界各国を訪問し、その実を挙げて参りたいと考えております。

また、わが国の国際社会に対する責任と総合安全保障の見地から、開発途上国に対する経済協力にも力を入れることが肝要と考えます。

第二に、行財政改革の断行であります。行革は国家百年の基礎を作るものであり、避けて通れないところであります。一昨年来、臨調が英知を集めて検討しておりますが、三月には最終答申が予定されており、この意味で今年は締めくくりに年といえましよう。しかし、実行面ではいよいよ本番の段階に入るわけで、官民力を合わせ、万難を排して推し進めなければなりません。

第三に、長期不況の下で、苦境にあえぐ中小企業への対策強化であります。中小企業は国民の大多数を占めて、国家の支柱であります。それゆえに中小企業の基盤を絶対的にゆるがせてはなりませんし、また、活力を失わしめるようなことがあってはなりません。不況からなんとか脱け出そうと努力している中小企業を支援するため、昨年決定をみた総合経済対策を早急かつ効果的に実施する一方、中小企業の投資促進税制や中小企業承継税制の実現を図ることが必要であります。

第四に、政治の安定を図ることが大切であります。政治が安定しなければ、経済も民生の安定もありません。内外ともに難局に直面しているだけに、この点を国民は強く望んでおります。

今年以上は以上の課題に全力を挙げて取り組み、日本の将来に明るい展望を拓かなければならないと思えます。

時局はまことに多難であり、私も商工会議所といたしましても、関係の皆様と力を合わせて積極的な活動を展開して参る所存であります。

さて、ご承知の通り、今年には統一地方選挙、参議院選挙の年。政治と経済は不即不離の関係にあるだけに、われわれは今まで以上に政治への関心を高めるべきであります。私は民主主義、自由主義の土壌にこそ、経済の発展、民生の向上という立派な花が咲くものと思えます。この信念にもとづいて昨年、個人の資格を持って同志の皆様と相携え、日本商工連盟を結成した次第ですが、今年はこの連盟の飛躍に向けて歩を進めて参りたいと存じますので、絶大なご協力をお願いする次第です。



会議所

だより

57年度収支更正予算を可決

第三回臨時議員総会ひらく

本所第三回臨時議員総会は、十二月九日午後四時から函館国際ホテルで開催、第一号議案昭和五十七年度収支更正予算(案)の件を原案通り可決しました。

本議案は①今回の本所議員改選に伴う会費の収入増加②国、道からの補助金の減少③議員改選特別負担金の減少④収入繰越金の増加⑤一般支出経費の増加⑥退職給与積立金の追加繰入れ⑦建物の修繕特別引当金の繰入れ⑧中小企業相談所会計の更正予算化等により今年度当初予算の一部を更正する必要があるが生じ、去る十一月十八日に開かれた第一回常議員会で更正予算の審議を上提、その結果本件は日程の関係上総務委員会に付託審議することとなり、十二月一日の総務委員会で慎重に審議し承認され本臨時議員総会に付議審議したもので、当初予算額(総括)収入二億三千八百二十六万円に対し、更正予

算額二億七千六百六十六万五千円(三千三百四十万五千円増)。支出二億三千八百二十六万円に対し、二億七千六百六十六万五千円(三千三百四十万五千円増)が承認されました。本議案審議終了後、次の①②③について報告が行われ午後五時二十分閉会

しました。報告事項①業務概要(十一月)②正副部長選任結果について③委員会の改廃及び正副委員長選任について④顧問の委嘱について⑤理事一人選任について⑥道商連臨時会員総会の報告⑦姉妹都市(カナダ・ハリファックス市)調印団の報告(川田会頭が調印団として参加)⑧函館ドック売却跡地の有効利用についてのヒアリング報告⑨函館選出道議会議員と市、市議会、本所三者合同陳情懇談会(本号6ページ記述)なお本臨時議員総会の議事に先立ち、同席上で、本年秋の褒章で黄綬褒章(業務精励)を受章した藤谷作

太郎議員に対し、日商永野会頭からの賀状と本所からの記念品が、また去る十月八日農林水産大臣表彰(酪農乳業功労)を受彰した田島久三議員に対し本所からの記念品が、この度の議員改選で会頭、副会頭を退任した辻才次郎、鈴木武二、平形由勝議員に対し、本所からの感謝状と記念品がそれぞれ川田会頭から贈られました。なお去る十一月二十九日北海道経済センター(札幌市)で開催された道商連第九十一回臨時会員総会(本所から細野副会頭、中島理事が出席)では、日本商工連盟北海道連合会が設立され、また川田会頭が辻前会頭の後任として道商連副会頭に選任されました。

また第三回臨時議員総会に先立ち去る十一月十八日午後二時から五島軒駅前支店で第一回常議員会が開催され、第一号議案顧問の委嘱、第二号議案委員会の改廃及び正副委員長選任、第三号議案理事一人選任、第四号議案新会員の加入、追加議案更正予算(案)等について審議し、内容は次の通りです。
◎顧問 函館市長矢野 康 函館税



第3回臨時議員総会＝函館国際ホテルで

関長西田政雄 日本銀行函館支店長
 佐原正三 青函船舶鉄道管理局局長
 野幸夫 衆議院議員阿部文男 同佐藤孝行 参議院議員田中正巳 元会頭加藤 昇 同田中誠一郎 元函館市長吉谷一次 (以上十人)
 ◎委員会の改廃及び正副委員長選任
 本所委員会の組織については、この度の本所議員改選を機会に従来の委員会(八委員会、三特別委員会、計十一委員会)を合理化集約し、四委員会、三特別委員会、計七委員会に組織替えしました。即ち(1)総務委員会(従来通り)(2)地域開発促進委

員会(従来のエネルギー対策委員会、港湾整備促進委員会を集約)(3)文教施設誘致促進委員会(従来の文教施設誘致促進委員会、北洋資料館・水族館建設促進特別委員会を集約)(4)中小企業経営振興委員会(従来の小規模企業振興対策委員会、中小企業経営合理化委員会、大型店対策特別委員会を集約)(5)テクノポリス建設特別委員会(従来のテクノポリス建設促進特別委員会、函館圏企業誘致委員会を集約)(6)駅前地域再開発特別委員会(従来の都市再開発対策委員会を改組)(7)青函トンネル対策特別委員会(昭和六十一年開業(予定)が、道南地域に及ぼす経済的影響が大きいことから、本所としてこれに対処するため、前期一時的に中断していたものを再組織化)の七委員会と小企業等経営改善資金審査会(従来通り継続)としました。なお正副委員長は別表の通りです。
 ◎理事 事務局長中島 茂
 ◎新会員加入 十一月十一日現在加入七十六事業所五百十九口 同日現在会員総数三千六百八十四事業所一万九千五百四十一口
 ◎更正予算(案) 本号4ページ記述の通り

委 員 会 ・ 審 査 会

(委 員 会)

委 員 会 名	委 員 長	副 委 員 長
総 務 委 員 会	高 間 勉	松 崎 勉
地 域 開 発 促 進 委 員 会	藤 川 正 臣	菅 原 敏 正
文 教 施 設 誘 致 促 進 委 員 会	堀 田 純 一	野 村 宜 市
中 小 企 業 経 営 振 興 委 員 会	棟 方 忠	大 総 一 郎
テ ク ノ ポ リ ス 建 設 委 員 会	金 子 寛	柳 沢 勝 治
駅 前 地 域 再 開 発 委 員 会	大 越 勝 巳	野 口 幸 治
青 函 ト ン ネ ル 対 策 委 員 会	下 郡 山 信 一	飯 田 貢 一
		秋 葉 武 雄
		杉 村 吉 彦
		小 笠 原 金 悦
		加 藤 隆 三

(審 査 会)

小 企 業 等 経 営 改 善 資 金 審 査 会	加 地 彦 太 郎
---------------------------	-----------

函館駅舎等建設促進など陳情

11・12月中の陳情要望活発

本所では、地域経済発展のため、あらゆる機会をとらえ広範な陳情・要望活動を展開しておりますが、去る十一、十二月には次の陳情を行いました。

◎東亜国内航空（函館～札幌間）路線の機種縮小計画に対する善処方要望 十一月十日川田会頭ほか副会頭が出札して東亜国内航空札幌支店長に対し、同社が計画している企業合理化の一つである同路線に就航中のジェット機三便、YS機一便を一便と三便にするという配機計画に対し、機種縮小は輸送収容能力の低下を招き、地域利用者に多大なる不便を与えるものであるとして、現行、または全便ジェット化するよう強力に要望しました。

◎昭和五十八年度中小企業対策予算要求額確保方陳情 長期にわたる景気の低迷による環境の悪化により、中小企業の経営は極めて困難な状況

にあり、この苦境を切り抜けて行くためには、小規模事業指導費補助金や小企業等経営改善資金制度等をはじめ、中小企業の活性化をはかるための人材養成、技術力向上対策等が急務であり、行革推進気運の中にあつて、昭和五十八年度政府予算の編成が厳しいことが予想されることから、五十八年度中小企業対策予算要求額が確保されるよう、十一月十五日文書をもって地元選出の自民党中小企業調査会所属阿部文男代議士を通じ関係省庁に対し陳情しました。

◎函館駅舎等国鉄関連施設の建設促進・北海道縦貫自動車道（函館～洞爺間）の建設促進方陳情 去る十二月四日函館選出道議会議員団との陳情懇談会が五島軒駅前支店で開催され、その席上、市、市議会、本所三者連名で陳情しました。本件はかねてから幾度となく関係先に強力に陳情していたもので、青函局庁舎の建

設・函館駅舎を含む駅ターミナルビル建設・函館駅貨物ホーム跡地の有効活用（大規模駐車場等）施設の建設と、本州と北海道を結ぶ道路交通体系の一体的整備と地域間格差是正を図るため、特に整備の立ち遅れている函館～洞爺間の整備計画区間への早期採択と早期着工につき特段の配慮方を陳情しました。

◎五十八年度税制改正に関する陳情 去る十二月十五日阿部文男代議士に対し、①中小企業承継税制の創設②中小企業の設備投資減税③中小法人の交際費課税の現行措置の維持、存続方を文書をもって陳情しました。これは来年度税制改正が厳しい状況下にあることから、十二月中旬に行われる政府税制調査会の答申に先立ち行ったものです。このほか十二月二十二日東京で開かれた北海道新幹線東北・新幹線盛岡以北及び青函トンネル建設促進三道県大会に川田会頭（北海道新幹線建設促進道南地方期成会会長）が出席し、工事促進方を関係先に陳情しました。



味と質を誇る……珍味加工50年のキャリア

新発売! いかの一本焼・はこだて焼いか

味で勝負する! のむらの有名 いか珍味

泉野村水産工業株式会社

〒040 北海道函館市浅野町4番14号 ☎(0138)41-2511(代)



八十歳を迎えた函館駅

川田会頭一日駅長に

開業記念式典

国鉄函館駅では、去る十二月十日、開業八十周年を祝す各種の記念行事が盛大に催されました。この日川田会頭（函館駅開業八十周年協賛会長）は、午前十時青函局長室で同局長から一日駅長の委嘱状をうけ制服、制帽を着用、直ちに笠島駅長、各主任から概況、業務説明をきいた後国鉄職員に対し一日駅長として訓



函館駅構内で列車の送迎をする川田一日駅長（左）

示を行い、同十一時から一時間ばかり駅構内巡視、列車の送迎、午後にはまた同駅正面玄関横に設置されたモニメント（三月に引退した連絡船、津軽丸のいかりとD51（蒸気機関車）の主動輪）の除幕式、次いで駅前拓銀ホールでの記念式典に出席するなど、一日駅長として有意義

伊藤さん(勤続40年)ら273人を表彰

第24回本所優良商工従業員表彰式

函館商工会議所主催の第二十四回優良商工従業員表彰が、去る十一月二十五日（木）午後三時から駅前拓銀ビル八階大ホールで開催されました。

本制度は、本所の会員の皆様を対象に、長年同一事業所に勤続し、かつ勤務成績特に優良と認める商工従業員を表彰し、その功績に報いもつて能率の増進と、生産意欲の昂揚を図ることを目的に、昭和三十三年に

な一日を終えました。同駅は明治三十五年十二月十日に開業、函館本郷（現渡島大野駅）間に初めて列車が走り、その後明治四十一年には青函連絡船が就航、以来本州と本道を結ぶ北の玄関口として重要な役割りを果たしてきましたが、昭和六十一年には青函トンネルの開業が予定され、連絡船存続、国鉄再建、駅前再開発等多くの問題を抱えており、その中であって同駅の益々の発展を期待するものです。

発足したものです。

本年度は、勤続四十年の伊藤英三さん（いわしや薬品）をはじめ、三十年以上十三人、二十年以上八十二人、十年以上百七十七人、計二百七十三人の方々が表彰を受けられました。

また三十年以上と四十年以上の受表彰者には、函館市と日本商工会議所からも表彰状と記念品がおくられ、長年の功績をたたえました。

株式会社 北都印刷

近代的な設備と能力

タイプ・タイプオフセット
写真植字・電子製版
各種製版

株式会社 北都印刷
代表取締役 高田 馨

函館市美原1丁目44-6 電話 (41) 0180番

宮坂金商(株)
取締役社長

阿部 幸太郎

弁天町一六一一三

(五十音順)



衆議院議員

阿部 文男

若松町二二一一五

日本通運(株)函館支店
支店長

秋葉 武雄

若松町一四一一二

(株)函館観光不動産
取締役社長

秋本 勲

松風町一七一八

東邦生命保険相互会社函館支社
支社長

天谷 征喜

末広町九一一三

(株)アラキ商事
代表取締役

荒木 春一

松風町十二一七

新函館都市ガス(株)
取締役社長

安藤 勝見

万代町八一

ベンケイ綿(株)
代表取締役

飯田 貢一

昭和四一四一七

三井生命保険相互会社函館支社
支社長

石塚 真三郎

若松町六一八

千代田生命保険相互会社函館支社
支社長

石丸 勝利

大手町二一七

朝日生命保険相互会社函館支社
支社長

石澤 萬太郎

大手町一七一六

(株)ホテル函館ロイヤル
代表取締役社長

岩佐 陽一郎

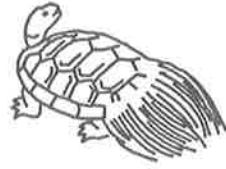
大森町一六一九

丸卓不動産(株)
代表取締役

遠藤 烈子

宝来町二二一一五

賀



(株)ティーオー小笠原
代表取締役

小笠原 金悦

松川町四五―一六

北海道議會議員

小笠原 孝

宮前町三一―一三

大一興業(株)
代表取締役

大越 勝巳

昭和二―四三―五〇

(株)ジャックス
顧問

大沼 平八郎

末広町二二―一五

大同生命保険相互会社函館支社
支社長

大野 盛夫

若松町七―一六

(株)棒二森屋
取締役社長

荻野 清

若松町一七―一二

(株)陶陶亭
代表取締役

加地 彦太郎

若松町一八―二〇

(株)第一印刷
代表取締役社長

加藤 順平

末広町一―八

大明工業(株)
代表取締役会長

加藤 政雄

栄町二二―一八

北海興業(株)
代表取締役社長

加藤 隆三

中島町一四―一六

金子商事(株)
代表取締役社長

金子 由雄

末広町二二―一三

日本化学飼料(株)
代表取締役社長

川田 寛

浅野町三一―六

(株)川村造船鉄工所
代表取締役社長

川村 兼悦郎

上磯町七重浜一―二―一

（株）湯の川プリンスホテル
代表取締役社長

河内 孝夫

湯川町一―二―三九

函館トヨペット（株）
代表取締役社長

河村 澤治

美原二―一四―一

（株）宝屋
代表取締役

菅 泉

新川町二三―一八

函館定温冷蔵（株）
代表取締役社長

木村 勝太郎

海岸町二三―一七

（株）北村船具店
取締役社長

北村 實

末広町二二―一六

（株）丸井今井函館支店
取締役支店長

楠 靖

本町三二―一五

真鉄工業（株）
代表取締役

倉崎 六利

浅野町四―八

（株）高木組
代表取締役・専務取締役

黒田 憲治

東雲町一九―一三

小島商事（株）道南ハイヤー（株）
代表取締役社長

小島 悦郎

富岡町一―六三―一五

さいかデパート
理事長

小松 重四郎

松風町九―一

（株）三喜屋
代表取締役

小山 肇一

松風町九―一二

函館木工品製作販売（株）
取締役社長

近藤 純悦

美原一―三六―一四

函館バス（株）
代表取締役

近藤 敏夫

高盛町一〇―一



藤



みかど(株)函館営業所
北海道担当取締役

佐藤悦郎

若松町二二一九

合同容器(株)
監査役

佐藤亀吉

港町一―三二―三四

衆議院議員

佐藤孝行

大手町五一〇

商工組合中央金庫函館支店
支店長

佐藤久雄

若松町三一六

(株)大洋産業
代表取締役

佐山サダエ

大縄町一六一六

(株)函館西武
常務取締役店長

齋藤實也

五稜郭町六一八

北海道議會議員

桜井外治

新川町一―二

日本団体生命保険(株)苫小牧支社
支社長

里吉天身

苫小牧市表町一―一―一三

(株)カネマル
代表取締役

下郡山信一

西桔梗町五八九―四六

(株)ほてい屋
取締役社長

白崎豊治

松風町九―一六

(株)山竹鈴木商店
取締役会長

白戸利栄

本町二六―一七

(株)菅製作所
代表取締役

菅鉄夫

吉川町三一四二

日魯漁業(株)本社函館事務所
所長

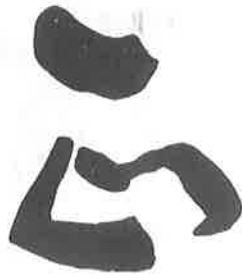
菅原敏正

大手町五一〇

榊 養軒
取締役社長

杉 村 吉 彦

元町二九一―四



榊湯の川グランドホテル
代表取締役社長

鈴 木 よ ね

湯川町三一―一七

榊 彩 華
代表取締役副社長

関 勝 吉

松風町九―一

北海道乳業(株)
取締役社長

田 島 久 三

昭和三一六―六

函館空港ビルディング(株)
代表取締役

田 中 誠 一 郎

高松町五一―一

富国生命保険相互会社函館支社
支社長

田 中 信 夫

大手町一一―一一

第二物産(株)
代表取締役社長

田 中 仁

西桔梗町五八九―一〇七

参議院議員

田 中 正 巳

大手町一一―一一

ダイカ(株)
相談役

大 総 一 郎

西桔梗町五八九―四一

北海道水産製造(株)函館支店
代表取締役社長

高 野 洋 蔵

豊川町二七―五

榊 高 橋 組
代表取締役

高 橋 力 造

高盛町三一―二〇

布目水産食品冷蔵(株)
代表取締役

竹 田 鉄 夫

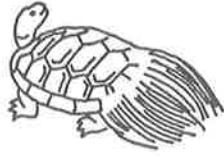
弁天町一七―一〇

榊 竹 田 本 店
取締役社長

竹 田 留 治

末広町五一―三

加



函東工業(株)
代表取締役

津村茂

浅野町三一―一

第一生命保険相互会社函館支社
支社長

土川進

本町六一―七

辻木材(株)
代表取締役社長

辻才次郎

若松町三七―二三

(株)弘告社
代表取締役会長

外崎舜子

東雲町一三一―八

(株)ニュー糸平
専務取締役

中澤眞一

大手町一九―一五

道南石油(株)
代表取締役

中野勲

末広町二四―六

五稜郭タワー(株)
取締役社長

中野真輔

五稜郭町四三―九

(株)若松屋衣裳店
代表取締役・専務取締役

中野亮

亀田町二二―七

(株)長門出版社
代表取締役

長門克哉

日乃出町一一―一三

函館商工信用組合
理事長

西野吉一

千歳町九―六

(株)花びしホテル
代表取締役

西村敏雄

湯川町一一―六一―八

(株)南北海道電子計算センター
代表取締役社長

沼崎弥太郎

末広町二二―一

協和石油(株)
代表取締役

野口幸治

末広町二二―一七

野村水産工業(株)
取締役社長

野村 宜市

浅野町四一四



(株)ニユールック
代表取締役社長

八田 俊男

松風町三一四

(株)東和電機製作所
代表取締役

浜出 慈仁

吉川町六一二九

半田機械器具(株)
代表取締役

半田 トミ

西桔梗町五八九―一二四

鈴屋商事(株)
取締役社長

平形 由勝

松風町九一八

(株)工藤組
代表取締役

福西 秀雄

梁川町五一四

北海道日産化学(株)
取締役社長

藤川 正臣

北浜町九一三三

兼藤漁業(株)
代表取締役社長

藤谷 作太郎

高松町四一八―二

(株)ホリタ
代表取締役社長

堀田 純一

湯川町三一四―五

(株)函織
代表取締役会長

本間 定次郎

西桔梗町五八九―一五四

ホンダメイト函館(株)
代表取締役

松本 栄一

昭和四一三六―一三二

(株)松本組
取締役社長

松本 演之

吉川町四一三〇

函館製網船具(株)
代表取締役会長

宮崎 三善

末広町一七一―四